

# 2018年度中間期決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



## 1. 決算概要

- (1) 決算ダイジェスト . . . p. 2
- (2) 損益状況 . . . p. 3
- (3) 預金（NCDを含む）・預かり資産 . . . p. 4
- (4) 貸出・有価証券 . . . p. 5
- (5) 健全性 . . . p. 6
- (6) 2018年度（2019年3月期）の決算予想 . . . p. 7
- (7) 2018年度の主な取り組み . . . p. 8

## 2. 「新生ふくぎん3Cプロジェクト」 . . . p. 9

## 3. 当行のプロフィール . . . p. 14

# (1) 決算ダイジェスト

## 損益状況

- 経常収益 54億円 (前年同期比 5億円減収)
- 経常利益 82百万円 (前年同期比 2億円減益)
- 中間純利益 71百万円 (前年同期比 2億円減益)
- 2018年3月期から黒字転換

## 財務状況

- 自己資本比率 9.05%(バーゼル3国内基準:単体)
- 金融再生法開示債権比率 2.15%(2018年3月末比0.23ポイント改善)

## 主な取組み

- 『ふくぎん「ふくしま応援寄付型私募債」』取扱い開始
- 子育て支援「寄付型ローン」『ふくぎん子ども絆ローン』取扱い開始
- ヒューレックスグループと業務提携開始

## (2) 損益状況

(億円)

	'18/9月期	'17/9月期	前年度比
経常収益(①+⑦)	54	60	▲5
業務収益①	50	55	▲4
貸出金利息	30	31	▲1
有価証券利息配当金	6	10	▲3
受入手数料	11	9	2
国債等債券売却益(債券関係益)②	1	0	0
業務費用③	53	54	▲1
預金利息	1	1	▲0
支払手数料	6	6	0
一般貸倒引当金繰入④	2	▲0	2
国債等債券償還損(債券関係損)⑤	3	4	▲1
営業経費	39	41	▲2
人件費	18	19	▲1
物件費	18	19	▲0
業務純益⑥(①-③)	▲2	0	▲3
コア業務純益{⑥-(②-⑤)+④}	1	4	▲2
臨時収益⑦	3	4	▲0
貸倒引当金戻入益	-	-	-
償却債権取立益	0	1	▲0
株式等売却益	1	2	▲0
臨時費用⑧	0	2	▲1
個別引当金繰入額	▲0	0	▲1
臨時損益⑨(⑦-⑧)	3	2	0
経常利益⑩(⑥+⑨)	0.8	3	▲2
特別損益⑪	▲0	0	▲0
法人税等⑫	0	0	▲0
中間純利益(⑩-⑪-⑫)	0.7	3	▲2

- 経常収益は、54億円と前年同期比5億円の減収。
- 業務収益は、50億円と同4億円の減収。
  - 貸出金利息は、貸出金利回りの低下から同1.6億円減少。
  - 有価証券利息配当金は、投資信託売却益の減少から同3.4億円減少。
  - 受入手数料は、新商品発売等による保険販売の増加を主因に同2.5億円の増加。
- 業務費用は53億円と同1億円の減少。
  - 一般貸倒引当金繰入は2億円。同2億円増加。
  - 国債等債券売却損・償還損は、ロスカット等売却損の減少から3億円と同1億円減少。
  - 営業経費は、経費の抜本的な見直しを実施し、人件費、物件費ともに減少し、同2億円減少。
- 業務純益は、▲2億円と同3億円減少、コア業務純益は1.9億円と同2億円減少。
- 臨時損益は、3億円と同0.6億円増加。
  - 個別貸出引当金繰入の減少(同1億円減少)
- 経常利益は、0.8億円と2億円減少。
- 中間純利益は、0.7億円と同2億円減少。
- 営業経費等の業務費用を削減したものの、貸出金利息や有価証券利息配当金の減少幅が大きく、減収減益。

# (3) 預金(NCDを含む)・預かり資産

○ 預金残高は7,257億円。対前年同期比51億円の増加。

- 個人預金は、同206億円の減少。震災関連賠償金入金の減少や運用商品へのシフトが主な要因。
- 法人預金は、同257億円増加。県内企業の堅調な業績を背景に増加。
- 地方公共団体預金は、同26億円の減少。

○ 預かり資産残高は858億円。同2億円の減少。販売額は135億円。同41億円の増加。関連手数料は5億円。同1億円の増加。

- 投資信託は、ニーズに合った新商品導入により販売額同2億円増加も、基準価格の下落等により残高は同27億円減少。
- 保険商品は、一時払保険商品販売が好調に推移し、販売額同38億円増加。残高も同26億円増加。
- 関連手数料は、同164百万円増加。個人への一時払保険、および法人保険販売増加が主な要因。

## ○ 預金(NCDを含む) + 預かり資産残高 (億円)

	'16/3	'17/3	'17/9	'18/3	'18/9	3月末比	前年同期比
預 金	7,125	7,131	7,206	7,016	7,257	240	51
個人	5,220	5,200	5,216	5,172	5,010	▲161	▲206
法人	1,380	1,364	1,464	1,426	1,721	295	257
地公体	484	527	489	382	462	79	▲26
預かり資産	897	863	860	830	858	27	▲2
投 信	478	453	454	424	427	2	▲27
保 険	374	364	362	360	389	28	26
公共債	44	46	42	45	41	▲4	▲0
合 計	8,023	7,995	8,066	7,847	8,115	268	49

## ○ 預かり資産 販売額推移 (億円; 関連手数料は百万円)

	'16/上期	'16/下期	'17/上期	'17/下期	'18/上期	'17/下期比	前年同期比
投 信	67	66	83	84	86	1	2
保 険	20	13	10	22	49	2	38
公共債	2	3	1	6	1	▲4	0
合 計	90	83	95	112	135	23	41
関連手数料	318	310	344	345	508	163	164

# (4) 貸出・有価証券

○ 貸出残高(私募債含む)は5,137億円。前年同期比178億円の増加。

- － 事業性貸出(私募債含む)は同88億円の増加。私募債受託が増加し同72億円増加。
- － 消費性貸出は同42億円の増加。住宅ローンは同35億円の増加、消費者ローンは同8億円の増加。

○ 有価証券の残高は1,341億円、2018年3月末比112億円の減少。

- － 金利低下局面において国内債券、および外債型投資信託の売却を実施したことにより減少。

○ 保有有価証券の評価損益は▲7億円。3月末比12億円の減少。

- － 国内外の金利上昇や保有株式の下落などが主な要因。

## ○ 貸出 残高推移

(億円)

	'16/3	'17/3	'17/9	'18/3	'18/9	3月末比	前年同期比
事業性	2,175	2,040	2,009	2,079	<b>2,098</b>	19	88
相対型	1,882	1,785	1,770	1,768	<b>1,673</b>	▲95	▲96
私募債	25	24	21	45	<b>94</b>	49	72
市場型	267	231	217	265	<b>330</b>	65	113
消費性	1,612	1,701	1,733	1,766	<b>1,776</b>	9	42
住宅ローン	1,389	1,421	1,433	1,456	<b>1,469</b>	12	35
消費者ローン	200	258	279	289	<b>287</b>	▲1	8
総合口座貸越	22	21	21	20	<b>19</b>	▲1	▲1
地公体	1,160	1,279	1,162	1,047	<b>1,067</b>	20	▲94
その他	41	53	53	203	<b>194</b>	▲8	141
合計	4,989	5,074	4,959	5,096	<b>5,137</b>	40	178
平 残	4,659	4,951	4,973	4,961	<b>4,992</b>	31	18

## ○ 有価証券 残高推移

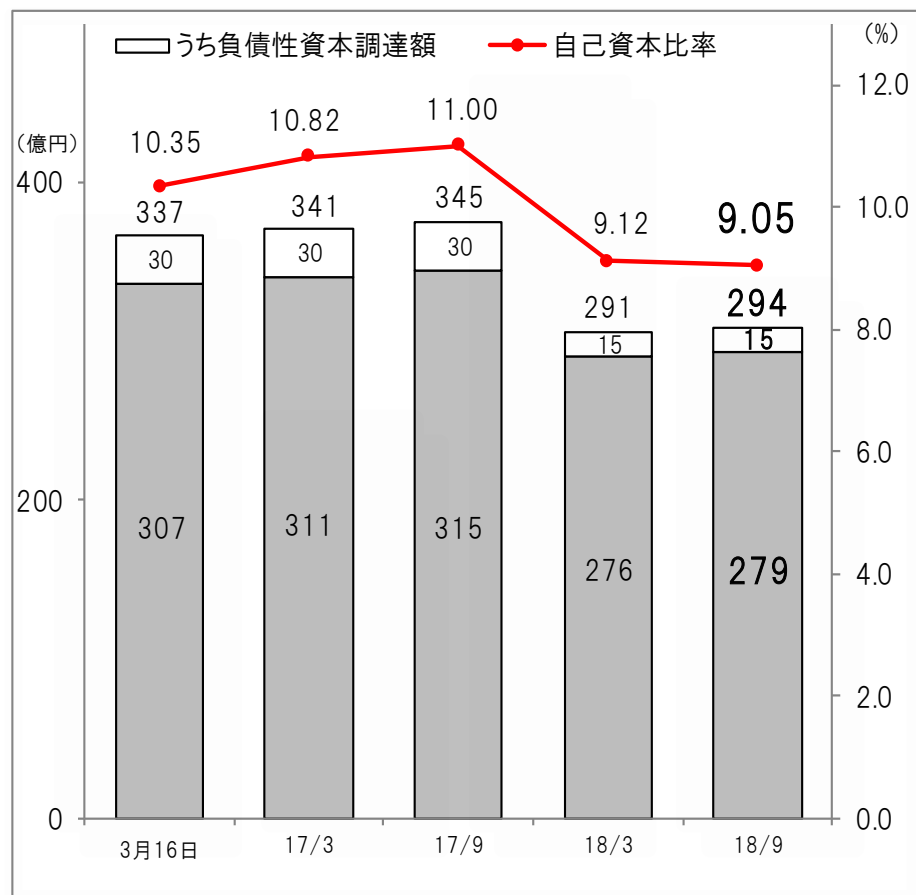
(億円)

	'16/3	'17/3	'17/9	'18/3	'18/9	3月末比	前年同期比
債券	1,163	977	800	703	<b>665</b>	▲38	▲134
国内債	1,110	941	765	665	<b>624</b>	▲41	▲140
外国債	53	35	35	37	<b>40</b>	2	5
投資信託	400	537	465	689	<b>596</b>	▲93	130
外債型	179	280	219	428	<b>219</b>	▲209	3
株式型	172	145	124	141	<b>202</b>	60	78
その他	48	111	122	118	<b>174</b>	55	52
株式	57	42	44	53	<b>70</b>	16	25
その他	1	1	4	7	<b>9</b>	1	4
合計	1,621	1,558	1,315	1,454	<b>1,341</b>	▲112	26
保有有価証券 の評価損益	14	▲9	▲4	4	<b>▲7</b>	▲12	▲3
債券の デフレーション(年)	2.6	6.2	6.2	7.1	<b>6.4</b>	▲0.6	0.1

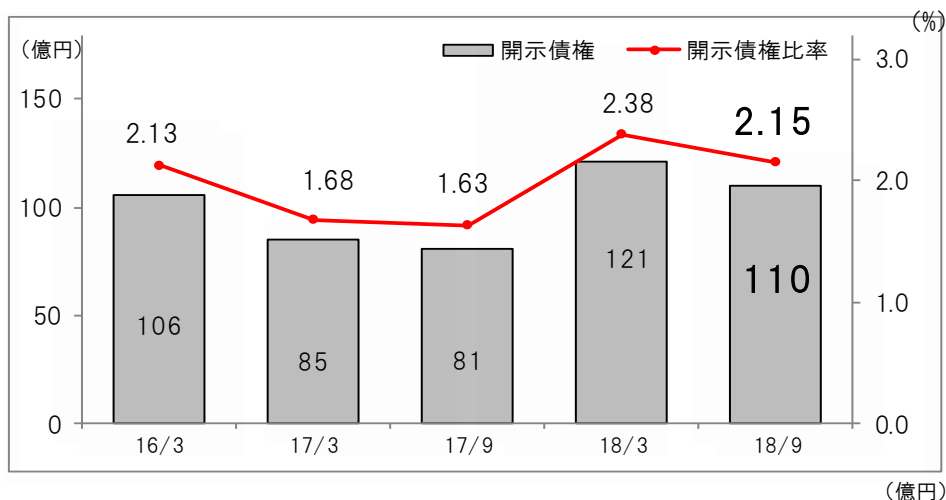
# (5) 健全性

- 自己資本は294億円。自己資本比率は9.05%。バーゼル3国内基準の4%を大幅に上回る水準。
- 金融再生法開示債権は、取引先企業の業況改善等により、2018年3月末対比11億円減少。
- 金融再生法開示債権比率は2.15%に低下。依然として低水準を維持。(ピークは2002年9月期19.6%)

## ○ 自己資本・自己資本比率(バーゼル3)



## ○ 金融再生法開示債権



	'16/3	'17/3	'17/9	'18/3	'18/9	3月末比
要管理債権	2	2	2	0	0	▲0
危険債権	68	51	46	83	80	▲2
破産更生等債権	34	32	32	37	29	▲8
合計	106	85	81	121	110	▲11

## (6) 2018年度(2019年3月期)の決算予想

- 2018年度通期単体決算は、経常収益97億円、経常利益1億円、当期純利益1億円を予想。
- 上記の業績予想を踏まえ、2018年度の配当金は、無配とする方針。ただし、今後の業績次第では、復配について検討の可能性。

### ○ 2018年度決算予想

(億円)

		2016年度 実績	2017年度 実績	2018年 9月実績	2018年度 予想
単 体	経常収益	127	117	54	97
	経常利益	14	▲16	0.8	1
	当期純利益	10	▲33	0.7	1
連 結	経常収益	144	136	64	116
	経常利益	16	▲13	1.8	3
	当期純利益	12	▲31	1.5	3



## (7) 2018年度の主な取組み

### ① 『ふくぎん「ふくしま応援寄付型私募債」』 取扱い開始。

2018年7月17日より取扱開始。私募債の発行を通じて、尾瀬の自然環境保護、および地域創生・地域経済の支援にご賛同いただいた法人のお客さまを対象とした私募債。

当行が発行企業からいただく手数料の一部から尾瀬保護財団や「こども食堂ネットワーク」、地域の学校や施設等へ寄贈を行います。

2018年度上期では、起債累計は9件、起債額は4億3千万円となりました。



### ② 子育て支援「寄付型ローン」『ふくぎん子ども絆ローン』 取扱い開始

2018年11月5日より取扱開始。中期経営計画『新生ふくぎん3Cプロジェクト』の主要施策である「ふくぎん“絆”リレープラン」に則り、子育て支援にご賛同いただいた法人、および事業性個人のお客さまを対象としたご融資。

本商品について一定の融資残高に到達する都度、当行が「ふくしまこども食堂ネットワーク」等の子育て支援に関わる団体や個人に寄付を行います。

### ③ ヒューレックスグループと業務提携開始。

2018年7月9日より取扱開始。地元中小企業が抱える経営課題の解決に取り組み地方創生を加速させるため、人材サービスを行うヒューレックスグループのヒューレックス株式会社、結婚相手紹介サービスを行うマリッジパートナーズ株式会社、およびM&Aなどの事業引継ぎ支援を行う事業承継推進機構株式会社と業務提携契約を締結しました。

本提携は、当行営業エリアに雇用の受け皿をつくり、さらにはUターン就職やUターン結婚による当行営業エリアへの移住・定住により少子化や地域の消費拡大を展望すると同時に、地域中小企業の存続・発展を支援することを目的としております。

# 新生ふくぎん3Cプロジェクト

～福島銀行は、3つの「C」を掲げて生まれ変わります。～

計画期間／2018年4月1日～2021年3月31日



# 基本方針

第1の**C**

**C**HALLENGE チャレンジ

事業活動を通じて、地域創生にチャレンジします。

第2の**C**

**C**USTOMER SATISFACTION カスタマー サティスファクション

お客様の満足・お客様本位を第一に、お客様の夢の実現と課題解決に、全力で取り組めます。

第3の**C**

**C**HANGE チェンジ

経営基盤（経営資源の再配置・人材育成・働きがいのある職場）を再構築し、収益力の強化を図ります。

# 主要施策

お取引先企業の課題解決のため  
適切な商品とサービスを提供します。

個人のお客様の夢の実現のため  
適切な商品とサービスを提供します。

## ふくぎん“絆”リレープラン

～お客様との絆を大切に、お客様同士の絆を創造し、次の世代に繋いでいきます。～

法人

企業活動の創業、成長・発展、承継、  
再生の各局面をサポートします。

### 創業支援の強化

- 創業セミナー・福活ファンド・クラウドファンディング
- 創業した方との伴走支援（ふくぎんUCEC）

### 企業活動資金の提供

- 中小企業向け融資
- 事業性融資先数の増加
- 再生可能エネルギー融資
- SDGs・ESG等融資

### 課題解決

（専担部署の創設・外部専門家と連携）

- 事業承継・M&A
- 人材の紹介・私募債・経営者保険

### 再生支援

- 再生支援の強化

個人

ライフサイクルイベントに合わせて  
生活設計をサポートします。

### 夢の実現

- 蓄財支援
- 目的に合ったローン商品の充実（目的別ローン・住宅ローン等）

### 生活設計支援

（専担部署の創設）

- 資産形成・資産継承・相続手続き支援  
資産運用アドバイザー12名  
（投資信託・生命保険）  
コンサルティングアドバイザー5名  
（証券仲介業務）
- 人生設計

### 生活再建支援

- 個人版再生支援

### 基盤の拡大

- 給与・年金振込先数の増加

# 主要施策



**経営基盤の再構築  
経営の効率化**



## 現場力の強化・働きがいのある職場 経営の効率化・経費削減

- 本部のスリム化と営業店事務の合理化による支店営業力の強化
- 楽しく働ける職場づくり
- 表彰制度、各種手当の見直し
- 各種経費の徹底した見直し
- 利便性の向上と事務の合理化
- 人材・店舗の効率的運用



**顧客・地域の要請に応えられる  
能力を持った行員の育成**



## 人材育成の強化

- 若手の早期育成
- 女性幹部育成・登用
- お客様へのソリューション提供の高度化へ向けた資格取得



**地域の活性化を目指した  
地域貢献**



## 社会貢献活動

- ふくぎん10大イベント
- 各種助成金
- 行員ボランティア
- 寄付型私募債

## 数値目標(2020年度)

**当期純利益**

**6億円**

地域に役立つ事業を通じて、健全な利益の増大を図ります。

**自己資本比率**

**8%**

国内基準を上回る水準を維持し、健全性を確保していきます。

**事業性融資先数**

**5,000先**

金融仲介機能を発揮し、より多くのお客様の夢の実現と課題解決に全力で取り組むことで、地域創生にチャレンジします。

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、久家直人  
TEL:024(525)2525 FAX:024(536)5338

# 当行のプロフィール

2018年9月末

〈本社所在地〉	福島県福島市万世町2番5号
〈電話番号〉	024-525-2525(代表)
〈設立年月日〉	1922(大正11)年11月27日
〈資本金〉	181億円
〈株主数〉	12,774名
〈従業員数〉	524名
〈店舗数〉	57店舗(5出張所、2ソリューションプラザ、 1ローンプラザ、1ネット支店含む)
〈預金残高〉	7,257億円
〈預かり資産〉	858億円
〈貸出金残高〉	5,137億円(私募債含む)
〈自己資本比率〉	9.05%(バーゼル3国内基準:単体)
〈金融再生法 開示債権比率〉	2.15%
〈連結子会社〉	(株)ふくぎんリース (株)福島カードサービス (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、久家直人 TEL:024(525)2525 FAX:024(536)5338

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。